

PICK UP



クセジユ

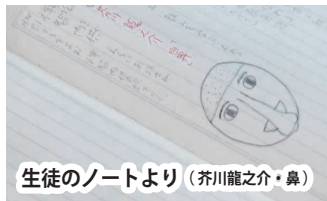
# 中学部の国語

国語教科主任 濱中 志門

●クセジユの国語授業が目指すのは「組み合わせ遊び」

クセジユ国語の授業とは、学校とも一般的な学習塾とも違うものだといえるでしょう。名前をつけるのであれば、これは「読解・論理・教養・表現を融合させた総合講座」なのです。

まずクセジユの国語では題材にこだわります。選ぶのは大人が読んだとしても十分に面白いと思えるような、中学生には比較的レベルの高い文章です。例えば人間の矛盾した心理を扱った芥川龍之介の短編『鼻』、全体主義の問題点を物語形式で描く『動物農場』といった小説、さらには日本の神話。評論文に目を向ければ、住居から日本文化を考察するエッセイ、言語や遺伝子、文化人類学にまつわるもので、テーマも様々です。こうした文章はいたずらに難しいのではなく、しっかりと読み解けば、時代や地域を越えた普遍的なテーマを学び取ることができるとのことです。クセジユではこうした文章を厳選し、ひとつの文章を1ヶ月かけてじっくりと読み込



生徒のノートより (芥川龍之介・鼻)

んでいきます。

その際に手がかりになるのが、クセジユオリジナルの読解問題です。基本的には全て記述式で、「筆者はここで何を主張しようとしているのか」といった深いレベルの理解をうながす問題になっています。このときに大切なのが、書かれていることを客観的に読み解くこと。そのためにクセジユでは文章を読む技術をオリジナルのマニュアルにまとめ、これを使って文章を要約し、問いに答え、さらに論の構成を図に描いたりしながら文章を理解していきます。

こうしてそれぞれの文章を理解しようとする、必然その文章や筆者の背景を知ることも必要になります。例えばヨーロッパの小説を本当に理解するためには、キリスト教などの文化的背景と、市民革命や産業革命といった歴史的背景の知識が必要になります。そうした生徒にとっての未知の世界を解説し、なおかつ生徒が興味を持つような形で紹介する導きナビゲートもクセジユ講師の役割のひとつです。

クセジユでは長年、「知識を知性に」という言葉をスローガンにしてきました。国語においても、文章から得られる知識を知っただけではまだ終わりではありません。「筆者の主張を身近な世界において考え、何がわかるのか」「筆者の主張は本当に正しいのか」といった、そこから一歩進んだ批判的な問いが生まれてくるからです。クセジユオリジナルの読解問題のなかには、「筆者の主張に対する自分の意見を説明しなさい」といった問題もあります。すると生徒たちからはさまざまな意見が飛び出します。それらをまとめながら、「なぜそう考えるのか」を質問し、考え、講師と生徒の対話を重ねながら進んでいくのです。

こうした問いを、私たちは「答えがひとつに定まらない問い」と呼んでいます。考えさせられる問いに数多く触れていくと、自然と幅広い知識とともに自分たちとは異なる立場や考え方への理解が深まっていきます。物理学者アインシュタインは新しいアイデアを創り出すことを「組み合わせ遊び」と表現していました。異なる世界に対しての幅広い視野、そしてそれらを組み合わせる独自の

着眼点や発想力、こうした新しい価値を創造するクリエイティビティこそが21世紀に求められる能力であり、またクセジユの国語が目指す本当の「国語力」なのです。

では実際に教室で展開される授業はどのようなものか、少し様子をお見せしましょう。

●「正しいとはなにか」をめぐる授業

2月 中学1年生授業 題材 マイケル・サンデル著『ハーバード白熱教室講義録』

この日の授業は、一冊の本を手渡されることから始まりました。タイトルは『ハーバード白熱教室講義録』。数年前に日本でも話題となった、ハーバード大学の哲学科教授マイケル・サンデル氏の授業を記録したものです。クセジユでは一冊の本をテキストとして配布することが少なくありません。いつてみれば学年が進むにつれて本棚に本が増えていくというイメージなのです。

さて、さっそく本を開いてみると章のタイトルには「犠牲になる命を選べるか」とあります。少しドキッとする言葉です。ここでサンデル教授は生徒たちに次のような問いを投げかけます。

「君は路面電車の運転手で、行く手に5人の労働者がいることに気がつく。電車を止めようとするが、ブレーキが利かない。このままでは5人の命を奪ってしまう。しかし、そのとき脇に逸れる待避線があることに気づく。

そちらに進めば5人の命を救うことができるが、そこにも1人の労働者がいる。そのまま進むか、ハンドルを切って待避線に進むか、正しい行いはどちらだろうか」

ここで私たちは一度本を閉じ、この問



授業風景

題について考えてみることにしました。正しい行いとは  
ちから、自分ならどうするだろうか。多数決をとると、生  
徒たちの多くは「ハンドルを切る」を選びました。

ではここで、問題の状況を色々と変えてみましょう。  
5人の労働者は高齢者だが、待避線の一人はまだ若い。  
あるいは、5人には子供がいるが、1人の方は独身であ  
る。または、5人の労働者は実は逃走中の悪人である。ま  
たは、待避線にいるのは視察中のアメリカ大統領である  
……。こうして質問を重ねていくと、生徒の選択もゆら  
ぎ、自信がなくなっていくます。実はサンデル教授の面  
白いところは、このように問題の状況を変えていくこと  
ににあります。それでも自分は同じ選択をするのか、そ

生徒C:事故の可能性はいつもあ  
るのだから、判断の責任を運転  
手に求めるのはおかしい。こう  
いうときに何を優先すべきか、  
会社が先に決めておくべきだと思  
う。

生徒B:自分だったらハンド  
ルを切らない。5人いる方が、  
誰かが電車が気がつく可能性  
が高いので、生き残る可能性  
も高くなると思うから。

生徒A:もし待避線にいるのが  
アメリカ大統領でも、運転手は  
待避線に進むべき。なぜなら、  
より多くの人の安全を守るのが  
鉄道会社の役割だから。ここで  
大統領を選んだら、今後鉄道を  
使う人は不安になる。



れを考えていくうちに、「自分はどのように正しさを判断  
しているのか」という根本的な問題が表れてくるといっ  
かけです。

ではここで、生徒たちの意見を見てみましょう  
(上図参照)。

さて、なかでもユニークなものを抜き出してみました  
が、「正しいか」は置いておいても、これらは何れも鋭い意  
見といえます。まず**生徒A**の意見は、単に多数派を優先  
すべきというのではなく、「判断する人の役割によっ  
て正しい選択は異なる」という意見です。例えば消防隊  
員ならば、ときに自分たちの命を危険にさらしてでも救  
助することが求められるでしょう。さらに、その選択が  
社会に与える影響まで考慮しているところも、広い視野  
を持って考えているといえます。**生徒B**の意見はかなり  
冷静な想像力を持っています。問題の状況として説明さ  
れていないところまで考えたこの意見は、生徒たちから  
も驚きとともに支持を集めました。確かに、単純な二択  
にしばられずに考える想像力もまた、問題を解決するう  
えでは必要になるものといえるでしょう。**生徒C**の意見  
はかなり斬新です。そして、実はこの意見こそが最も注目  
されるべきかもしれません。この電車の問題は別名「ト  
ロッコ問題」と呼ばれ、かなり古くからある哲学の問題で  
す。それが今、人工知能を搭載した自律走行車の出現に  
より再びホットな問題として議論されているのです。実  
際にマサチューセッツ工科大学では、事故に直面した人  
工知能にどのような選択をさせるべきなのかが研究され  
ています。近年多くの新技術が登場していますが、新しい  
技術を導入する際には「それをどのように使うべきか」と  
いうところまで考える必要があります。「トロッコ問題」  
は一見するとありえない、机上の空論のようにも思えま  
す。しかし実際にはこの「答えがひとつに定まらない問  
題をどう考えるかが、現実の社会を作りあげているので  
す。

## ●豊かな「脱線」にこそ 学びの楽しさがある

クセジユ国語の最大の魅力は何かといえば、実は「脱  
線」であると思います。先ほどの『ハーバード白熱教室』を  
読む授業でいえば、ここから話題はヨーロッパの哲学史  
や、科学の倫理へと広がっていきます。例えば、人間を超  
える人工知能は創るべきではないという論があります。  
ここでは「人間を時代遅れな存在にしているのではない」と  
いう議論の他にも、人間と同等以上的人工知能には人権  
を認めるべきなのかという議論も含まれています。  
もし人間と変わらない知性を持った人工知能が存在す  
るならばそれを人間が一方的に使うのは奴隷制度と変  
わりがありません。それは果たして正しいのか、という問  
題も出てくる。

これは国語という教科を超えた、社会や理科にも踏み  
込む内容であるといえるでしょう。クセジユでは、そうし  
た教科の枠を積極的に超えて考えます。このように「脱  
線」していくことで、様々な分野の知識はつながってい  
き、そして身近な問題として感じられるようになります。  
そして、「新しいことを知る」という知的好奇心が刺激  
されるのです。ときには文章の内容を理解するための



「脱線」として  
マンガを作成  
したり、文章を  
もとに建築模  
型を組み立て  
たりだってい  
ます。このよ  
うに全ての教  
科の中心とな  
るものが、ク  
セジユの国語科  
だといえるで  
しょう。